

井戸端だより

第2号

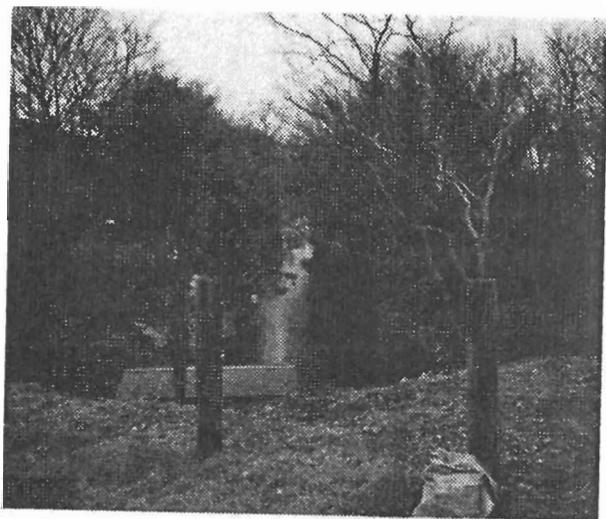
発行日 1993.4.27

発行 ぐらしの学習会

泉づくしの半日

2月27日、泉に詳しいIさんの案内で、町内に点在する泉の見学に行きました。参加者、メンバー2人というのは何とも残念なことでした。

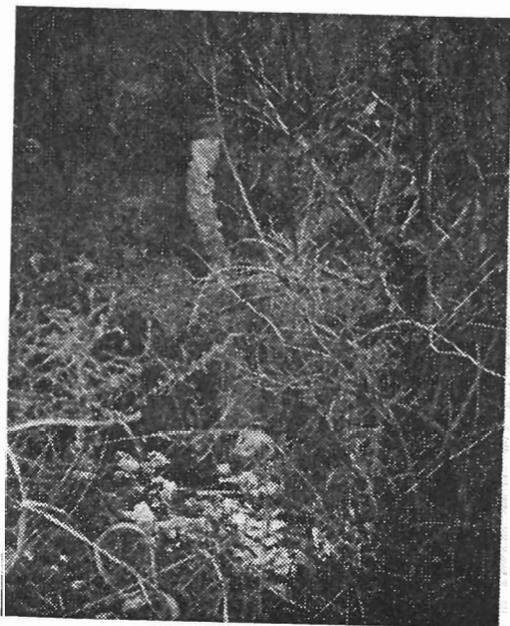
まず、最初に柳原泉を見ました。この泉は、「柳原泉美化推進会」が管理しており、管理小屋が設置されていました。時々は見に来る人がいるのでしょうか？昔は、ここでアヒルも飼っていたとか。水はとてもきれいでした。周りもゴミの山はなく、古タイヤで車止めが作ってありました。「塵芥放棄の禁止」の立て札は、「建設省・松山東警察所」連名のものでした。近くの「重信川流域生活排水対策協議会（愛媛県・重信町）」のおおきな立て看板が目につきました。



次に行った美ヶ村泉は、すぐ脇がゴミの山。きれいな泉と不法投棄のゴミの山、このコントラストは、胸の痛むものでした。近くに愛大医学部と刑務所の排水が出ている口があって、重信川に流れているのが判りました。

拜志の簡易水道は、地下水をポンプで汲み上げているのを実際に目で見る事ができました。この井戸は、戦前囚人達が掘ったものであるとか。この水は、本当に透明度の高いきれいなもので感激しました。

いくつかの泉を見て思ったことは、このきれいな泉をゴミの不法投棄の場とにならないように保護整備できないだろうかということでした。先日、町議会の一般質問で、ある議員さんが、「泉を保護して憩いの場にしたらどうか？」ということを出していましたが、大勢の人が詰め掛けてかえって美しい泉を台無しにするのでは困りますが、美しい泉を守るための整備の仕方はいろいろあるのではないかと思ったことでした。 (T)



“飲み水はどこから？”

—重信町取水口見学—



子ども達が、社会見学で行った重信町の水道施設を機会があれば一度見学したいと思っていました。私達がいま飲んでいる水は、どこから取ったもので、どの様に処理されているのか知りたかったからです。今回、役場の水道課の方の案内で、町内3ヶ所の簡易水道の設備を見せていただく機会を得て、「水について」勉強させていただきました。消毒用の次亜塩素酸ナトリウムは、食塩を電気分解して機械で作成し、自動的に水に入れていること、都会とは違い元の水がよいので、塩素濃度も低くて良いこと、急速濾過と緩速濾過、簡易水道と上水道の違い等学ぶことができました。よい水を供給するための職員の方々のご苦勞。しかし、水道料金滞納者に頭を悩まされていると伺い、同じ重信町住民として怒りがこみ上げてきました。私達住民も、職員の方々と手を取り合って、このよい水質をいつまでも守るために努力しなければならないと思いました。(T)

1月29日、寒波が少しゆるんだ暖かさのなか、水道課の方の案内で、町内6か所ある取水施設のうち3か所を見学しました。知らなければ見落とすような重信川沿いの田畑の傍ら、銀色の取水ポンプと濾過槽と滅菌室の建物が一セットで見え、それらが金網で囲まれているのが簡易水道です。これ以降それらしき建物はすぐ判るようになりました。簡易水道は愛大医学部設立を機に大幅に整備されたようで、今では94.3%の普及率。上林地区だけは川の表流水を使用しているがあとはすべて地下水で、水質も非常に良いとのこと。しかも汲み上げた水は半日たらずに各家庭に給水されているそうです。いずれも重信川の伏流水の恩恵だと思いました。

そう思いながら後日改めて重信川の上流から下流まで流域を眺めてみると、いくつか心配な点が浮かび上がってきました。一つは、上流域にある非常に大規模な採石場です。ここ数年の間に急激に規模が拡大しているようです。下流域の井戸の水量が減っているという話も聞きます。採石による濁りや水脈への影響など地下水には問題ないのでしょうか？ そのほか山の保水や洪水対策の面ではどうなのでしょう？ また最近急ピッチで重信川中流域に沿って高速自動車道の建設が進められていますが、これらの工事によって伏流水に影響はないのでしょうか？ 今私達が授かっている水が良いものだけに、なんとかこれを守れないのでしょうか。これまで見過ごして来たものが胸に迫って見えてきました。(M)

安全でおいしい水が飲みたい。その思いから仲間に加えてもらい数ヶ月。町役場の人の案内で水道取水口見学。その後参加者らといろいろな話をする中で、環境保全に対することに関心が高まったようです。各地でさまざまな取組みがなされ、命の水を守るには川を、川を守るためには山を守らなければならないこと、山の緑を守ることが、川の浄化と大きな関連があることを知ることができました。そして今、自分達の住んでいるこの重信で、どのような取組をしていったらよいのか大きな課題が与えられたようです。

新聞等で、14年ぶりに水質基準を見直す答申が提出されたことが報じられていました。これまで26しかなかった水質基準項目を46に増やし、さらに検出量が少ない注視すべき物質を対象とした「監視項目」、おいしい水のための「快適水質項目」を新たに設けたとのこと。このことは各自治体に見直しを迫ることになるでしょう。ただし一方で都会ほどの汚染の心配のないところでは逆に多項目の検査は負担になるとの水道行政側の声も聞きました。確かに全国一律の施行の弊害かもしれません。なにより大切なことは、多くの検査が必要となるような水源にならないよう山のこと、川のことなどをもっと見直すこと。よりよい水の環境作りへの取組みが大事だと強く思います。”水への関心”が家族も一緒にいろいろなことを考える糸口になったことはうれしいことです。

(松)

見学に先立って、ご近所の方から「雨が多く降った時、水道水が黒く濁って出るのは何故か、聞いて欲しい。」というメッセージをもらいました。このことを気に留めて見学に臨みました。

ところで、私にとって意外だったのは、私達の家庭に来ている水の取り口（取水口）が、地区によって違うことでした。のみならず、それぞれの家によって違う場合さえあるという事です。ですから、「黒く濁る」原因を知るには、自分の家の水道水がどの取水口から来ているか、また配管に問題はないかなど、調べる必要があるようです。

そんなにややこしいなら、いっそ上水道にすれば（つまり、一ヶ所から重信町全戸に水を送る）良いかという、必ずしもそうでは無いというのです。安全でおいしい水が飲みたいなら、むしろ今のままが一番良いのだそうです。水道課の方たちが、水を守ることに自信と誇りをもって働いて下さっていることを知り、感動しました。「あたりまえ」に、水が飲める。それを支える縁の下の力もちです。

(ハ)

松山市では新年度から松くい虫防除のための農薬空中散布を取りやめることになりました。「水」を見始めてから気になっていたこの問題、重信町ではどうなっているのか、現状と将来の見通しについて森林組合と町の産業経済課に行き、お話を伺いました。

森林組合では組合長さんが歴史的な経過から、昔松林は木炭や薪にも使われ、松枯れの木はそれらに利用されていた。松葉などもかき集められていたこと。今ではそれももうなく、10年ほどまえから松枯れ病が流行り始めた。その原因はマツノマダラカミキリ虫が運ぶ「松の材線虫」とわかり、そのカミキリ虫を殺すための農薬散布が有効とのことで国や県から助成があった。重信町全体で7000町歩の山林のうち240町歩でヘリコプターを使い、残っている松林に毎年農薬を散布している。杉や桧と違い松は根が深くはり、山の崩壊を防ぐなどの利点がある。また、組合では昔松林でたくさん取れた松茸を復活させたいと岡山などに研究に行っている。それらの理由から今ある松は是非残したい。今後も農薬散布を止める考えはないとのことをお話してくださいました。

「松茸」なんておいしそうな話ですが、農薬散布は松茸菌も殺してしまうのではとの質問に、使っている農薬は昆虫は殺しても菌には影響がないとのこと。また、その他この農薬散布による鳥の被害は調査しているが一羽もないとのこと。ただし蜜蜂は被害を受けるので巣箱からその日は出さないよう知らせているとのことでした。林から昆虫がいなくなる、林の生態系はどうなるのでしょうか？聞きながらレイチェル・カーソンの「沈黙の春」を思い出し、ぞっとしました。山も自然も豊かだった古き良き時代を生きてきた組合長さんの目には木も森も見えているようですが生態系全体は見えていないようでした。

そのほか杉・桧だけでなく広葉樹を植える動きが始まっていること。上林から久万にぬける林道建設にともなって皿が峰に自然公園を作っていること。夢は各部落にひとつづつお年より

や小さな子供も憩える自然公園をつくりたいとのことなど空中散布の話以外は中々興味深く、共通の話もできました。わたしたちももっと山や森林への関心を深め、林業に携わっている方々とも交流を持ちたいと思いました。

町の産業経済課では課長さんと担当課員のお二人がデータを交えお話をくださいました。240ヘクタールの自然松の林を対象に、昭和58年度から10年間にわたり国の委託金一千万円を得て農薬の空中散布をしている。赤松は植林しにくい急峻な山に生え、緑を保ち、山を守っている。実際に農薬散布をやめた松山地区は松が枯れたが重信町側は残っている。1ヘクタールあたり60リットルのスミパインを36倍に薄めて使用している。風速10-15m以下の時実施し、松林のみ（杉の幼芽に害があるため）実施しているとのこと。特に松材の利用を狙っていることはない。今ある松の緑を残すためにしている。松山市が止めたからといって、止める話が出ていないとのことでした。

松枯れについては、森林の大きなサイクルの中で土地が肥えてくると松は次第に姿を消し、他の木に取って変わるといふ説もあり、また酸性雨の影響を言う人もいます。また、各地では空中散布によらない防除の試みも出てきています。花木でもスミパインと同種のスミチオンで通常1000倍に薄めて散布するよう注意書きに書いてあります。いくら奥山とはいえ、これだけの濃さと大量の農薬を散布することで生態系を破壊するのは目に見えていますし、川への流入も心配です。なにかもっと害の少ない防除の方法はないのでしょうか。またお話を聞いていて、いま一つなぜこれまでして松にだけこだわることなのかよくわかりませんでした。松山城のある城山は昔、はげ山だったそうです。そのため頂上にひえやその他鳥の好物を撒き、鳥の力によって下の実のなる木を上へ運び、今あるみごとな雑木林ができあがったそうです。昔の人の造山の知恵をもう一度見直したいものです。

山が元気になれば虫も鳥も元気になり、そして人も元気になれると思います。（M）

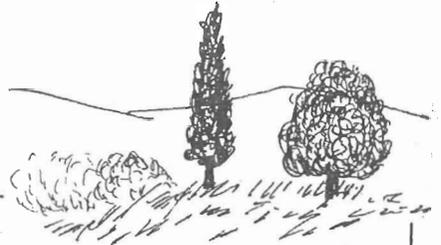
重信町総合公園の計画案を見て

広報しげのぶの1月号号外で「重信町総合公園の計画案の縦覧」をするのを知り、1月25日、メンバー4人で役場の企画課におもむき、見てきました。

場所は、西岡公園の少し東あたり。計画案によると、ゲートボール場、テニスコート、グラウンドを持ち、池や山の一部をそのままの形で利用し、フィールドアスレチックの設備も備えるというものでした。子供を持つものにとっては、散歩に出かけ、のんびりと遊べる場所ができることは朗報でした。でも、このあたりは、確か西岡焼きの遺跡や古墳などがあつたのでは？・・・・・・・・。その点役場の方に伺いましたが、明確な回答は得られませんでした。

公園計画案の縦覧の他に、工業団地の計画についても資料を見せて頂きました。誘致企業は、水を使わない企業で、大気汚染防止法、水質汚濁防止法の基準はしっかり守ることになっている点、生活排水についても、合併浄化槽を設置して、汚物を流さないことになっている点確認しました。

今回の体験を通して、「知る権利」は最大限行使し、行政側の資料に目を通し、要望できることは要望していくことが、よりよい重信町にするためには必要なのではないかと思います。(丁)

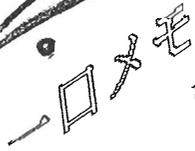


カゲロウたちのその後

- ★ 一号紙上で人気を集めたカゲロウたち（拝志川の水生物）のその後についてお知らせします。このほど、調査の結果が届きました。
- ★ 今回は、残留農薬は出ませんでした。「ホッ」と一息。私達の送った標本が使いものになって、「ほっ」と一息。

カゲロウたちのウラ話

- ★ 捕まえたカゲロウたちを、乾燥して研究所に送るのですが、これが大変。電子レンジやオーブンを使うのですが、おいそれとは昇天してくれません。ひたすら成仏を念じて、レンジの前でじっとしてられない私達の姿、ご想像下さい。
- ★ この調査は、ずっと続けなければ意味がありません。これからは、暖かくなるし川に入るのも気持ち良くなることでしょう。興味のある方はどうぞ。すでに、三月十七日、三十一日、と実施しました。(ハ)



合併浄化槽ってなに？

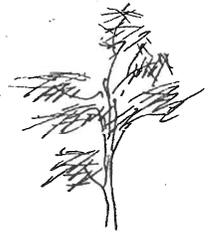
トイレの汚水だけでなく、台所や風呂の雑排水を処理する浄化槽。メーカーによっては魚が住めるぐらいの1-5 PPMまで浄化能力のあるものも。下水設備のないところは全体としてみれば個別に合併浄化槽を備えたほうが経済的といわれている。国も設置を推進しており、重信町でも今年度から山ノ内地区で補助金制度が適用されることになった。水は循環しています。私達の出す排水にも目を向けたいものです。(M)

今後の予定

4月28日(水) "水のみち" 探訪 - 上林取水口と泉をたずねて -
10:00 重信町役場前集合 約2時間の予定

日時はまだ未定ですが以下のことが予定されています。

- * 町長との面談
- * 水性生物について専門の桑田先生の話聞く
- * 泉の探訪・調査(泉にまつわる話や昔の生活の中の泉の役割など)
- * その他適宜関心、疑問、問題が生じたことの調査や勉強。



耳より情報

水をきれいにする会
< 第4回水生生物調査 >

問い合わせ: 76-6408(武井)

4月29日(木) 午前10時~12時 於: 重信川・重信橋あたり
集合: 重信橋・森松公園 持ち物: ギレ、手ぬぐい、長靴またはサンダル
指導: 桑田一男さん(松山淡水ベントス研究所) 参加費: 300円

会員募集中!

くらしの学習会では一緒に活動する仲間を募集しています。会費は年2千円。いつでも入会できます。お問い合わせは

くらしの学習会

重信町西岡599-68 丸井方

TEL: 64-0828

(あるいは、林: 64-6956) まで

編集の後で

予定を大幅にオーバー。遅くなりましたが井戸端だより第2号をお届けします。一月から活動をはじめて3ヶ月、この間好奇心(?)に任せ、皆でちょこちょこ重信町内を動き回ったおかげで、盛り沢山の内容になりました。ちょっと堅いかなーという感じですが、どうぞ最後までお読みください。(M)